



東通村と都市部との交流事業 2019 ～ 東通村のわらしを訪ねる会 ～



7月26日(金)から7月28日(日)にかけて、東通★東風塾(山崎孝悦 塾長)が主催する“東通村と都市部との交流事業2019「東通村のわらしを訪ねる会」”が開催されました。

これは、東京都北区立浮間小学校の5年生が、東通小学校5年生を訪ね、3日間ホームステイしながら電気の生産地である東通村での生活や東通村が誇る第1次産業を体験する事業です。交流開始16年となる今年は、13名の浮間小の“わらし”達が来村し、6月の交流事業以来、およそ2カ月ぶりの再会を果たしました。

越善村長から入村証を交付された浮間小学校のわらし達は、東通小学校のわらし達との学年行事などで東通村への理解や交流を深めました。その後は、ひとりひとり個別の家庭にホームステイし、農業も漁業も盛んな東通村での田舎暮らしを体験しました。また、期間中は、農園でのブルーベリー摘み取りや津軽海峡でのカゴ漁など、東通村の自然や第1次産業を体験するプログラムも行われました。

この交流事業では、これまで180人を超える浮間小学校のわらし達が入村証を受け取ってきました。当時のわらし達は大学生や社会人になり、成長してからも東通村での体験が忘れられないそうです。浮間小学校のわらし達が毎年少しずつ植えてきたブルーベリーの苗木は、今では“農園”と呼べるほどの本数になり、たくさんの実を結んでいます。



越善村長が入村証を交付



初めての方言に笑顔も「？」も



1本1本ブルーベリーを手植え



獲れたてのカニも初体験!